



- (静岡)  
1 所在地 静岡県焼津市小川、道場田  
2 調査期間 一九八一年(昭57)五月～一九八三年(昭58)三月  
3 発掘機関 烧津市埋蔵文化財調査事務所  
4 調査担当者 原川 宏・山口和夫・丸山博信・大石佳弘  
5 遺跡の種類 集落跡  
6 遺跡の年代 平安時代～室町時代  
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要  
道場田遺跡は、大井川水系によって形成された沖積平野上に位置している。付近には古墳時代の小深田遺跡・小深田西遺跡と中世居館址として知られる小川城遺跡が存在する。  
昭和五四年度の分布調査の際、小川城遺跡の内堀より呪符木簡一点が検出されたが、この道場田遺跡の木簡も小川城遺跡との関連で把握したほうがよい。
- 遺跡は昭和三四年の土地

## 静岡・道場田遺跡

- 1 所在地 静岡県焼津市小川、道場田  
2 調査期間 一九八一年(昭57)五月～一九八三年(昭58)三月  
3 発掘機関 烧津市埋蔵文化財調査事務所

- 4 調査担当者 原川 宏・山口和夫・丸山博信・大石佳弘

- 5 遺跡の種類 集落跡

- 6 遺跡の年代 平安時代～室町時代

- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

主な遺構としては、掘立柱建物の柱穴群、110を越す井戸、土壙、溝状遺構等がある。特に井戸については、変化に富み、石組、木枠、曲物等を組み合せて多様な形態で造られている。

一四点の木簡の出土状態は、(1)(2)(3)は井戸より出土し(2)(3)は同一井戸からである。(5)～(9)は柱穴からの検出、(11)～(14)は土壙からである。これらは五七年一二月までのもので五八年一月以降六点確認され、道場田遺跡での木簡は合計110点となる。积文は、奈良国立文化財研究所史料調査室の皆様、向坂鋼一氏、八木勝行氏の御教示をいただいた。

## 8 木簡の积文・内容

- (1) 「×(梵字)咄咲唎鬼地鎮鬼除☆」 218×30×2 011  
 (2) 「□□廻路□□□☆」 220×38×1 011  
 (3) 「×(梵字)□□□□□□」 253×38×1 011  
 (4) 「七難即滅 九九八十一

改良の工事の際、木枠の井戸と平安時代末の遺物の検出されたことから知られることとなつたが、今回小川地区の区画整理事業が計画され、それに伴い発掘調査が実施されることとなつた。便宜的に遺跡を五地点に分け調査をしたが、木簡が検出されたのは、第一地点、第二地点、第三地点からのもので、小川城遺跡の東側に当る地域である。

